

別冊

おいしだものがたり

～資料館資料編～ ■企画展「大石田雛人形展」より

ただ今資料館では恒例の「大石田雛人形展」を開催中です。毎年この展示期間中よく聞かれるのは「おひな様とお内裏様はどちらが左（もしくは右）が正解なのか」ということです。そこで今回は、「雛人形の左右」について考えてみたいと思います。

現在雛人形のカatalogなどで目にするのは向かって左に男雛、右に女雛というものが多いのではないのでしょうか。しかし、昔の並べ方は逆だったという主張もあり、関東式と関西式は左右が逆であるともいわれます。さらには人形から見ての左右と人形を正面にしての左右が入り乱れた結果、並び方が錯綜しているようです。手始めにこのあたりを整理していきます。

日本古来の立ち位置の序列は、古代中国の「天子南面ス」という教えに由来します。易経などでは、天子（皇帝）は不動の北極星を頭上に頂き、南を向くことで世の中がうまくまとまると考えていました。ここに太陽の昇る東を陽とする陰陽思想を併せると、右図のような序列になります。この関係が方角から離れても適用され、左上位の考えが日本にも伝わりました。天皇から見て左にいる左大臣が右大臣よりも上位であるように、この左上位とはあくまで当人たちから見ての左右です。例えば「右に出るものがない」という慣用表現などでは、その人を正面にしての右、つまり当人からすれば左（上位）に誰もいないということになります。この混同を避けるため、方角を基準にした序列であることをおさえておきました。



雛人形の並びが昔は男雛が左だったとするのは、この左上位の考えによったものです。では現在のように位置が逆転したのは何故でしょうか。それは、国際儀礼（プロトコル）が右上位であることに由来します。右上位の並びは西洋化が進んだ明治以降、皇室で採用されていました。これが昭和天皇の即位礼（昭和3）でも採用され、両陛下が並んだ姿が新聞に掲載された結果、世に広く知られるようになりました。そこで雛人形もこの並びに倣うことが提唱され、東京雛人形卸商組合が賛同したという経緯があります。これに対し京都を中心とする日本古来の左上位を推す声も唱えられたことで、関西式（左上位）、関東式（右上位）という区別が生まれました。



実際にかつては左上位で並べられたのかというと、江戸期の風俗描写などでは、確かに左上位の並びで描かれることが多いようです。しかし左図のような逆パターンも一定数見受けられることから、必ずしも左上位が守られていたわけではないことがわかります。ともすると左上位を文化的背景を持つために、その方が自然に感じられるから、という程度の理由なのかもしれません。

雛祭の意義を、夫婦和順を学ぶためであるなどと、堅苦しく解釈しようとする向きは江戸時代からあったようです。しかしその根本にあるのは、（女の子に限らず）その家に誕生した子どもの健やかな成長を祈り、その子を喜ばせるために賑やかに祝いしようとするところにあります。そこに左右の正解を求めたり上位下位などという考え方を持ち出すのもあまり相応しくないように思われます。各家庭でおおらかに、好き好きに飾って賑々しくお祝いするのが正解といえば正解なのではないでしょうか。

企画展「大石田雛人形展」は4月3日（日）まで



大石田町公式アカウント開設
LINEはじめました

防災情報などを
受け取ることができます。
**友だち登録を
お願いします!**

登録方法
右のQRコードを読み
取って友だちに追加
してください。

大石田町公式LINE

**防災放送の内容を
電話で確認できます**

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。
このダイヤルは定時（夕方6時のメロディ等）放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。
確認ダイヤル：0237-48-8444
■総務課総務グループ TEL35-2111（内線218）

町の人口 令和4年3月1日現在

世帯数	2,265 戸	(-2)
総人口	6,497 人	(-7)
男	3,216 人	(-2)
女	3,281 人	(-5)
(2月中の異動)		
出生	0 人	転入 5 人
死亡	9 人	転出 3 人

※この数字は外国人数も含めた数字です。